



産婦人科における緊急避妊薬処方現状 ～緊急避妊薬のOTC化に関する緊急アンケート調査より～

公益社団法人 日本産婦人科医会

背景および調査の目的

背景

- 緊急避妊薬のスイッチOTC化がもたらす社会的影響に関して、慎重な検討を求める意見がある。
- オンライン診療での緊急避妊を開始するにあたり性教育を充実させる方針が示されたにもかかわらず、具体的政策の方向性が未だ示されていない。
- 確実な避妊法の普及が進んでいない。

調査の目的

緊急避妊薬の処方および予期せぬ妊娠に関する診療を担っている産婦人科医に、緊急避妊薬処方の実態および緊急避妊薬のスイッチOTC化に関する意識に関して調査を行い、課題を抽出する。

調査の概要

調査実施期間 令和3年8月25日～9月12日

調査対象 産婦人科医

調査方法 公益社団法人日本産婦人科医会会員への郵送 および/または公益社団法人日本産科婦人科学会会員へのメール送付により、アンケート実施を通知。

Webでの回答または質問紙での回答の返送。

対象人数 16,680名

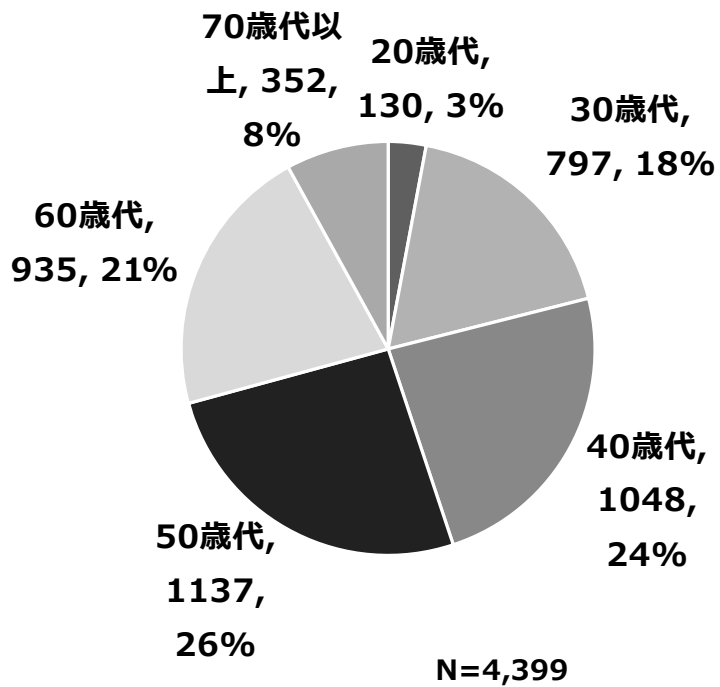
回答数 5,492件（Web回答4,399件、郵送での回答1,093件）

回収率 32.9%（令和3年9月27日現在の暫定値）

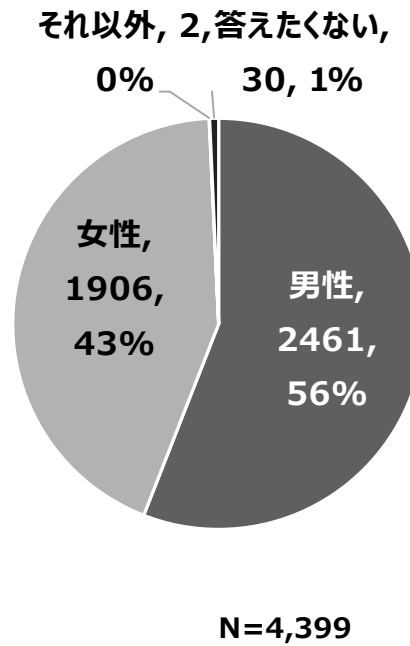
* 解析途中であるため、Web回答分のみ・データクリーニング未実施の段階での結果を暫定値として示す。

回答者の属性 (Web回答分のみ・暫定値)

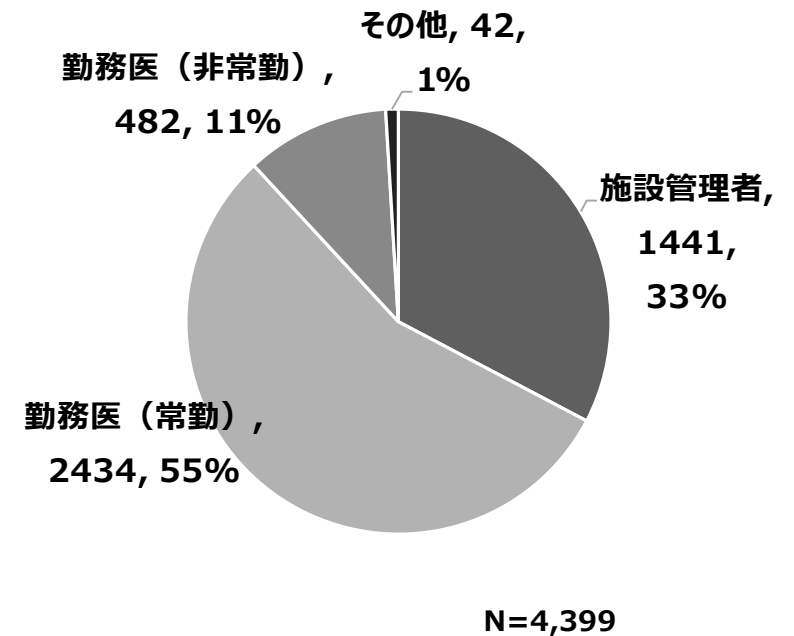
年齢



性別

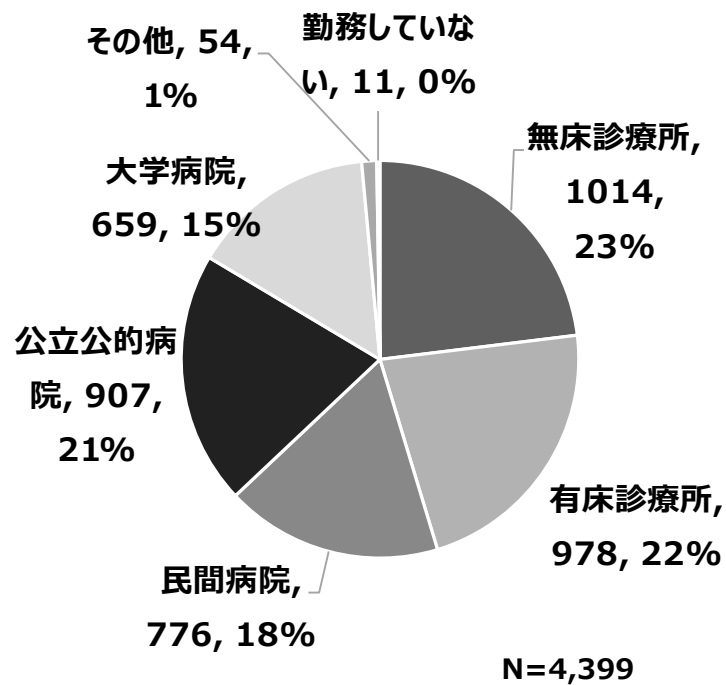


勤務形態

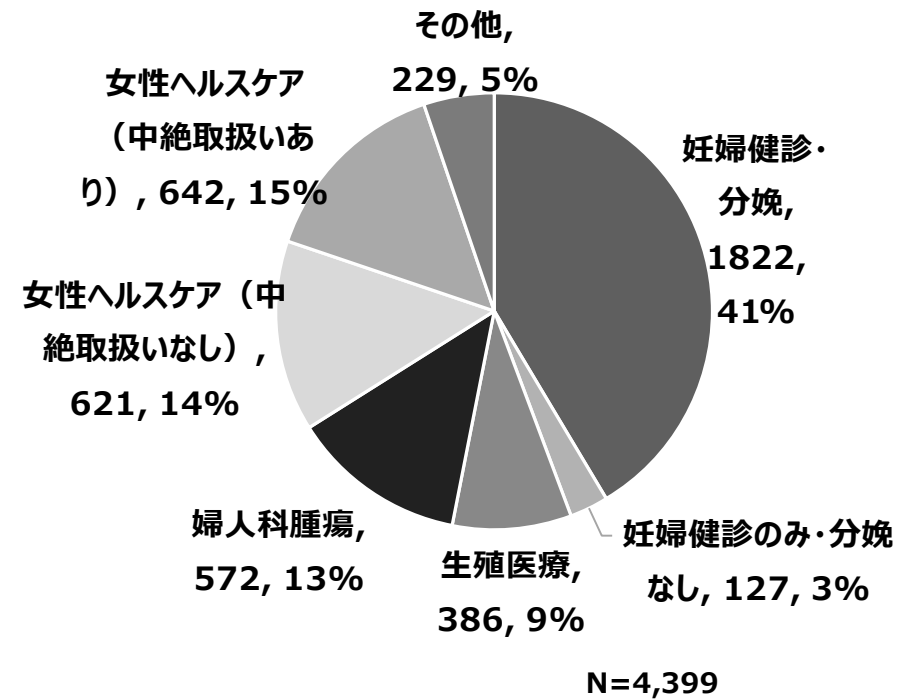


回答者の所属 (Web回答分のみ・暫定値)

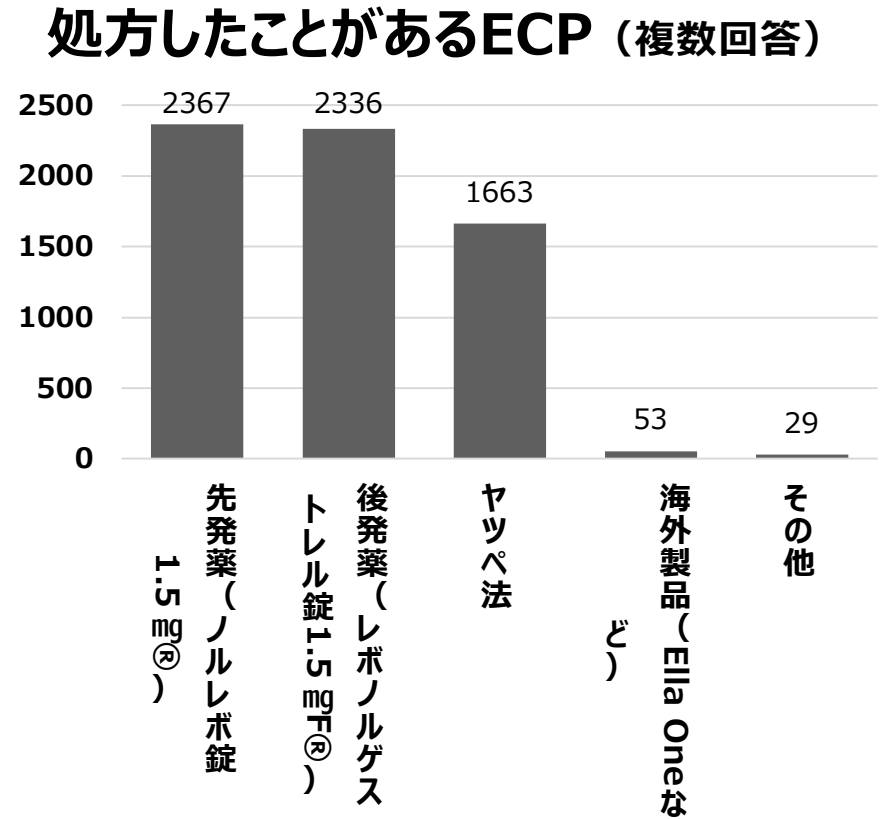
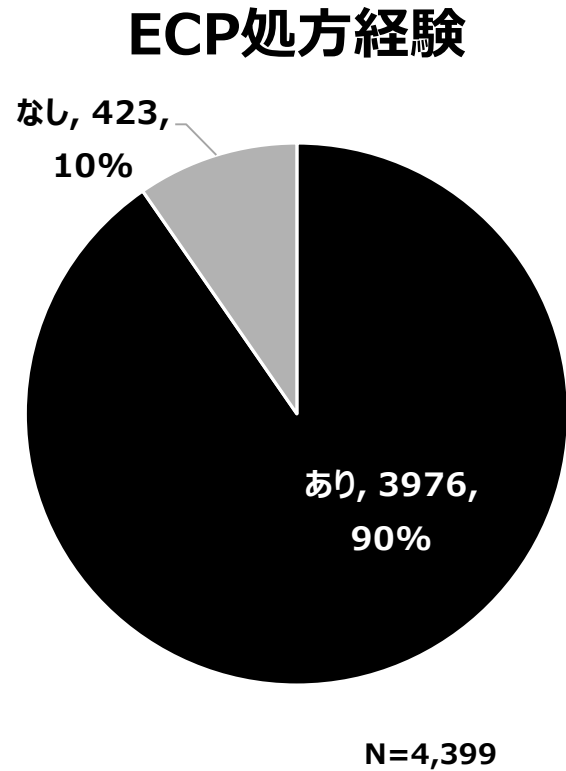
主として勤務している医療機関



主な担当分野



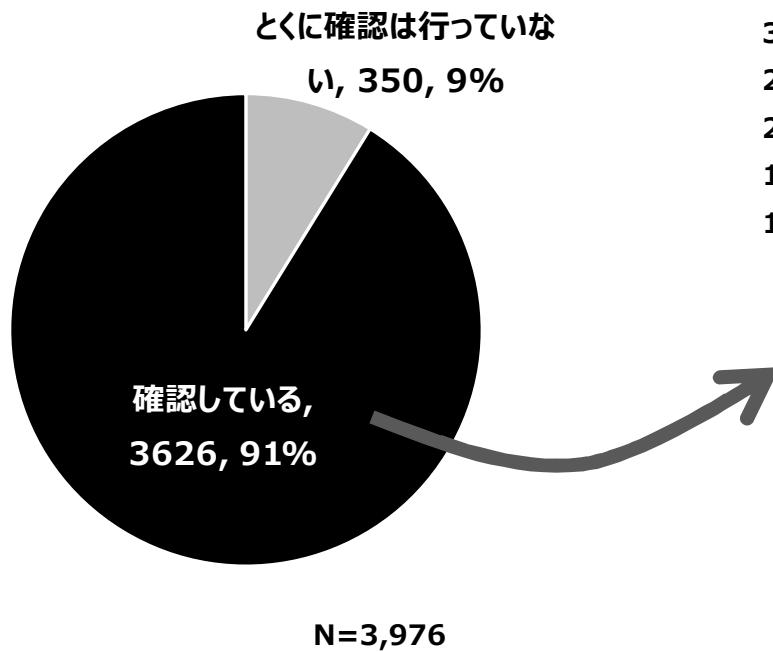
緊急避妊薬（ECP）の処方経験 （Web回答分のみ・暫定値）



ECP処方時の問診

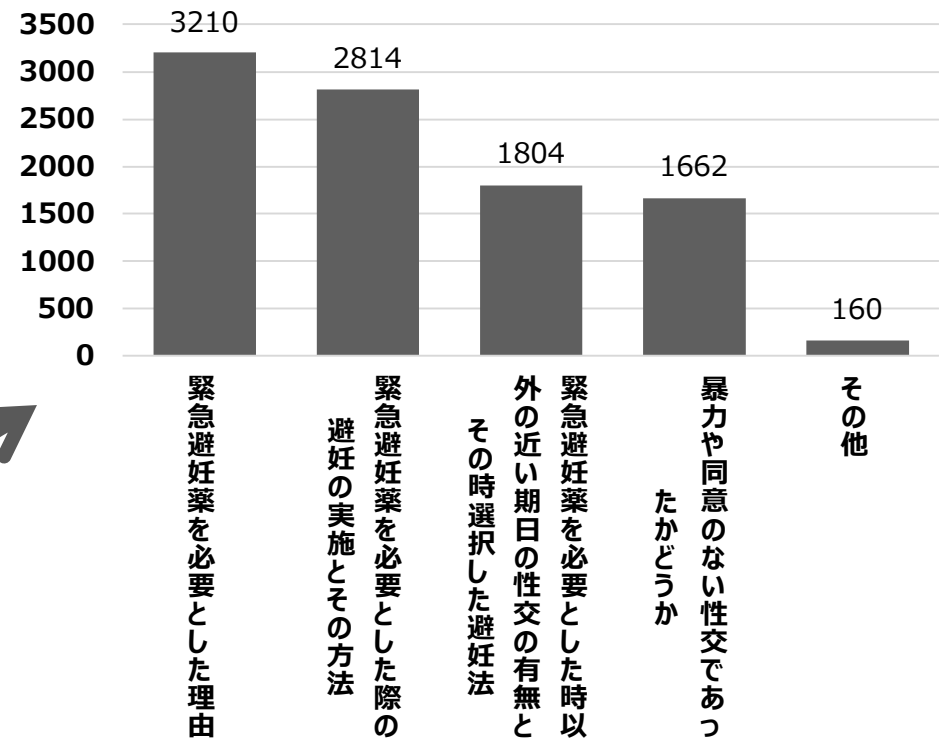
(Web回答分のみ・暫定値)

処方時に理由等に関する確認を行っているか



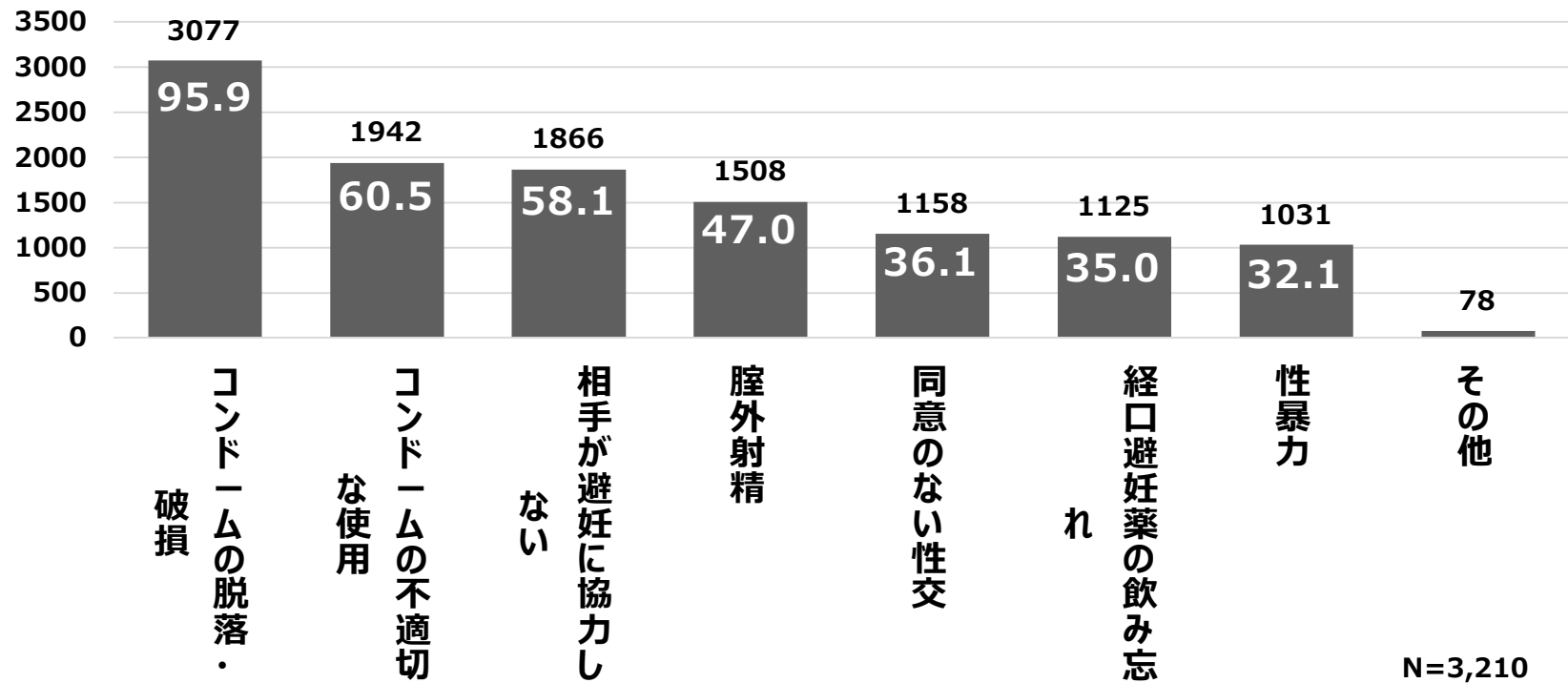
確認している事項

(確認していると回答した3,626名、複数回答)



経験があるECP処方理由 (Web回答分のみ・暫定値)

ECPを必要とした理由を確認していると回答した産婦人科医3,210名のうち、
処方理由として確認した経験のある事項 (複数回答)

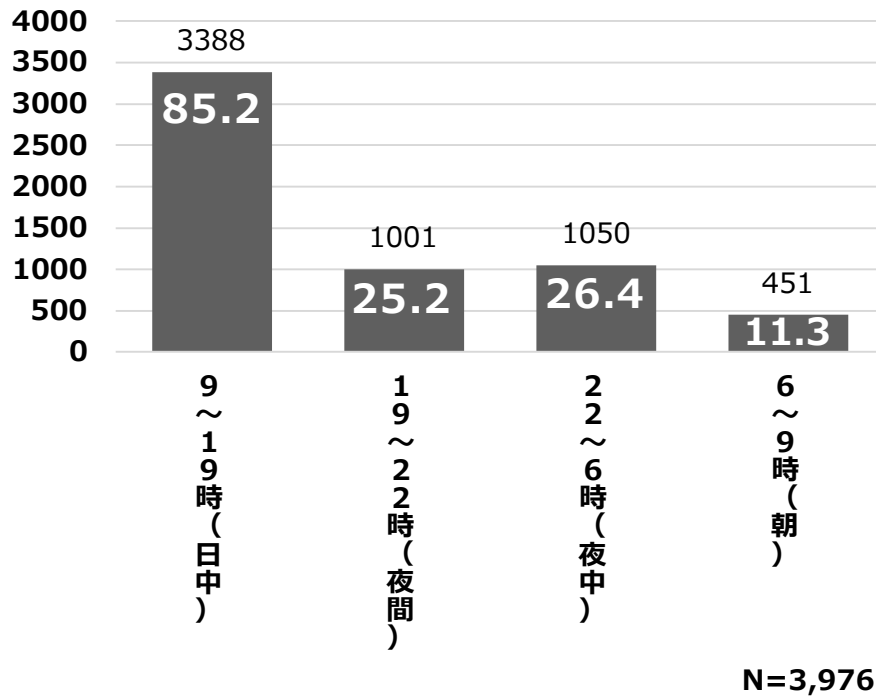


ECP処方の特徴

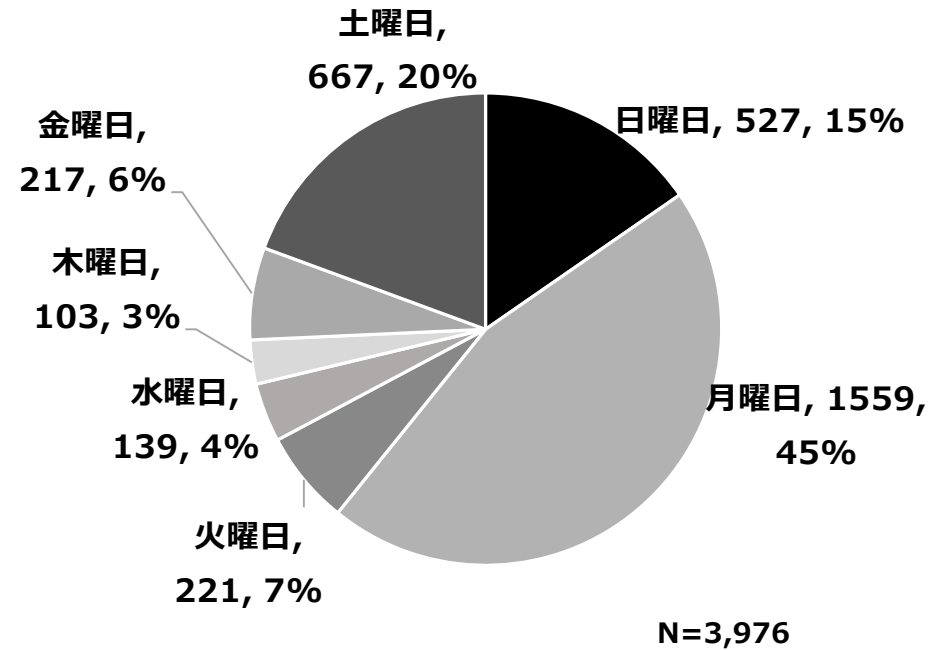
(Web回答分のみ・暫定値)

ECP処方経験があると回答した産婦人科医3,976名における検討

処方経験がある時間帯 (複数回答)



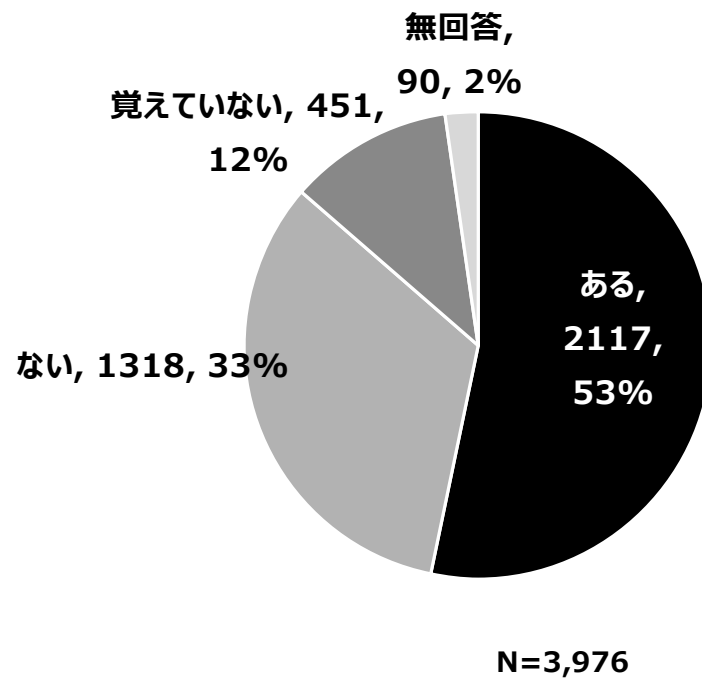
処方が最も多い曜日



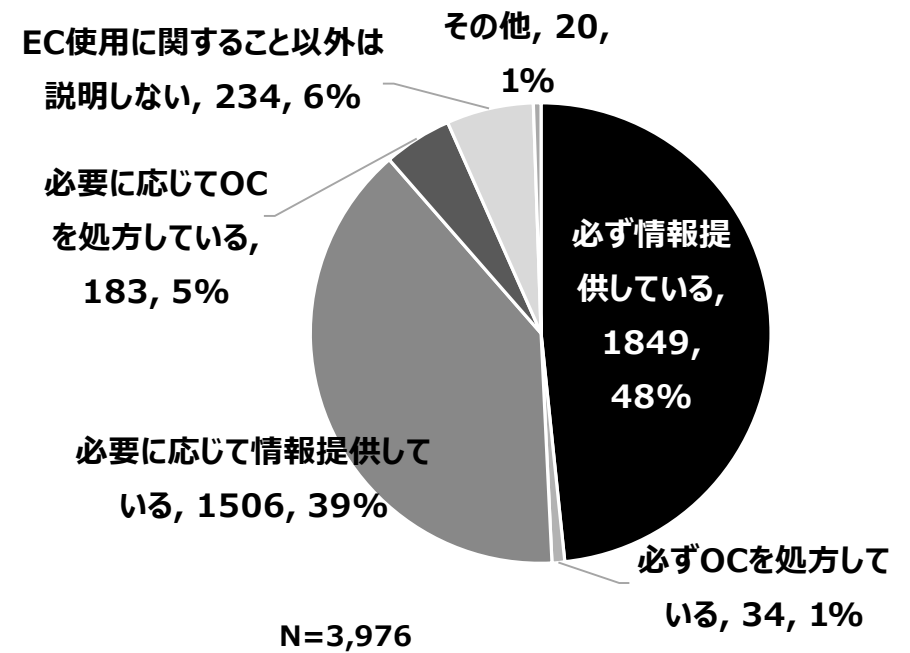
避妊法の選択 (Web回答分のみ・暫定値)

ECP処方経験があると回答した産婦人科医3,976名における検討

同じ女性に複数回処方した経験



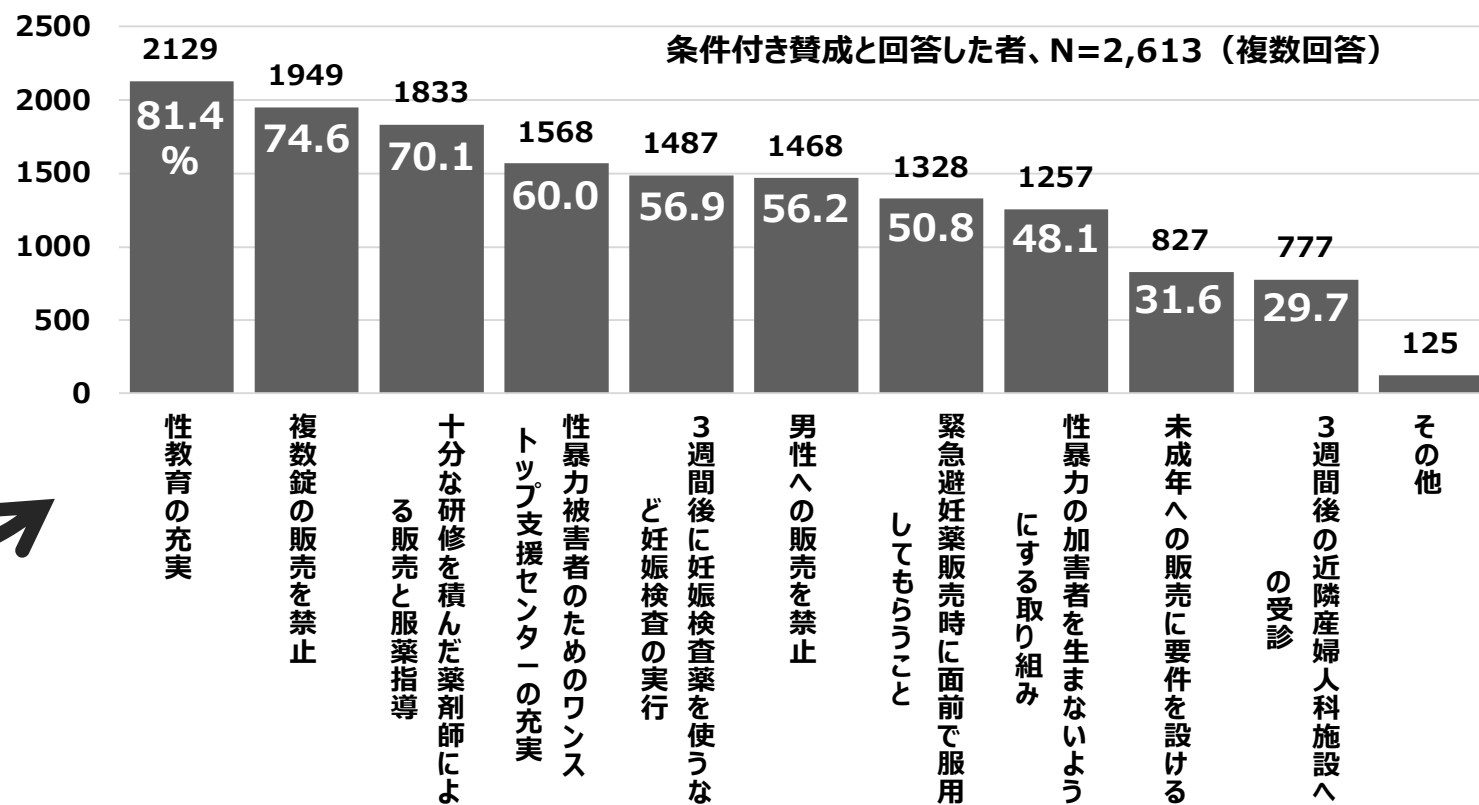
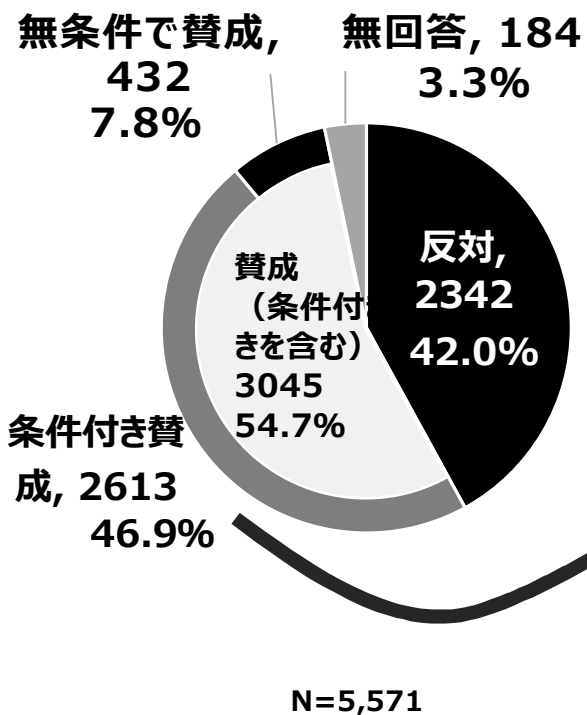
ECP処方後の 確実な避妊法に関する情報提供・処方



※全回答、データクリーニング未実施の暫定値による
R3.10.4.会議後差し替え

ECPのOTC化について

OTC化の検討にあたり設けた方がよいと思う要件/必要と思う取り組み

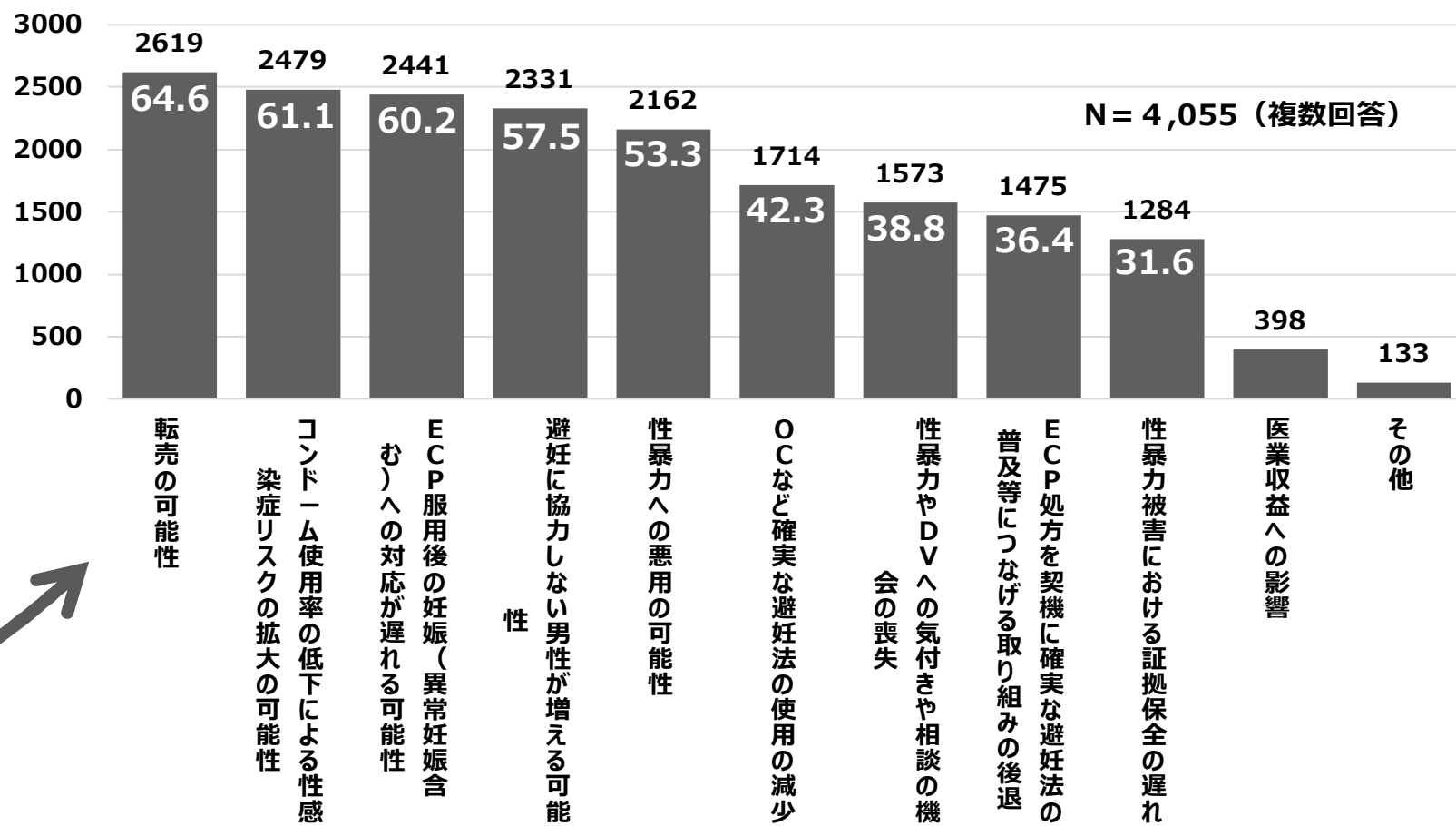
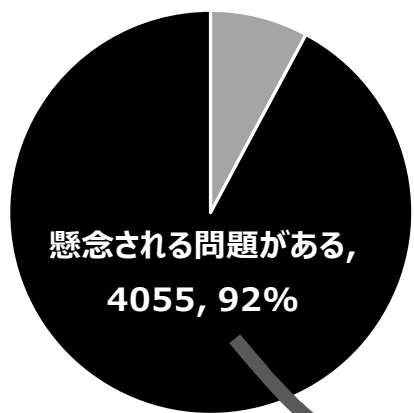


OTC化により懸念されると思うこと

(Web回答分のみ・暫定値)

OTC化により
懸念される問題は
あるか

懸念される問題はない,
344, 8%



調査結果を受けての本会の見解

- 産婦人科医の7.8%はスイッチOTC化に無条件で賛成、46.9%が条件付きで賛成、42%が反対であった。（※全回答、データクリーニング未実施の暫定値による）
- **OTC化の検討にあたり性教育の充実を条件とする意見が多数であったが、その実施には時間がかかることから、OTC化の検討に先行して性教育の充実に取り組むべきである。92%がOTC化に懸念される問題があると回答した(WEB回答分のみ)ことから、懸念事項の解決に向けた早急な検討は重要である。**
- 産婦人科医は、ECP処方を入力と捉え、確実な避妊法の普及および性暴力被害者支援のゲートキーパーとしての役割を果たしている。
- **本邦においては、避妊法の主流がコンドームであること、確実な避妊法の普及率が上がらないこと、固定的性別役割意識が根強くジェンダーに基づく暴力が深刻であること、性的同意やジェンダーに関する教育や性暴力被害者支援が不十分であることなど、ジェンダー課題が山積している。OTC化によりこれらのジェンダー課題を後退させることがないよう、全般を見据えた広い視点での議論を求める。**